

個別の配慮を必要とする子への支援（その1）

インクルーシブ教育システム構築のためには、特別支援教育の一人一人を大切にされた教育の充実が基盤となります。葛南教育事務所重点目標の一つでもある、授業のユニバーサルデザイン化の一つである「わかる授業づくり」の工夫も求められています。

学び方の特性は一人一人異なります。指導方法もその特性に応じた個別の配慮や学びやすい学習環境の整備の工夫などが必要です。そこで今年度は、「自立」に向けたより主体的な取組を目指した学習支援の事例を紹介していきます。

御活用ください！

- ① 千葉県総合教育センターからユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫ヒント集が平成27年3月に発行されました。

<http://www.ice.or.jp/nc>



- ② 千葉県教育委員会から「合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の事例を中心に～」が平成29年3月に発行されました。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/tokubetsushien/gouritekihairyojireishuu.html>



一人一人が輝くための支援

☆事例Aさんについて

Aさんは、通常の学級に在籍している小学校2年生です。

友だちとも仲良く遊べますが、ボール遊びが苦手です。はさみやのりを使うこと、絵の具で色を塗ることも苦手です。板書をノートに書いたり視写をしたりするのに苦労している様子がみられました。また、音読の時同じ行を読んだり行を読み飛ばしたりすることが多くありありました。家庭学習では毎回保護者が一緒に取り組んでいましたが、なかなか成果が上がりませんでした。

担任は、Aさんが苦手としていることに対してどのような手だてが有効かを考えていました。保護者に学校での様子を伝え、様々な視点から支援を進めることになりました。



考えられること

- 眼科での検査結果からも、視力に問題はありません。
- 眼球の動きに課題があると考えられました。
 - 1) 視線の移動がスムーズにできず、ボールを目で追いつけられない
 - 2) 黒板からノートに視線を移動し、再度黒板に視線を戻したとき、どこを見たらよいかかわらなくなってしまう

取り組んだこと

☆本やワークシートを使って、見る力を高めるビジョントレーニングを実施しました。これは眼球をすばやく動かす練習や動く物を目で追う練習の一例です。



その1

ゲーム的内容を取り入れながら学べるように配慮しました。キャラクターや使用する数を変えることで、難易度も変更できます。Aさんの様子に合わせて取り組みました。



どこに
いるかな？

Point

目的の物に目をとめる！
じっくり見て探す！

か	き	さ	せ	も	ぼ	ん	よ
ど	る	も	ぐ	と	め	で	
で	べ	ぬ	ち	ー	ず	り	は
せ	た	ん	ら	れ	ば	ら	や
る	み	さ	ぎ	か	ま	ん	て
ま	ぱ	ん	だ	ん	ら	さ	は
く	ぐ	ん	さ	ば	く	さ	は
ろ	お	ゆ	と	べ	だ	ま	む
し	ね	こ	り	す	べ	し	い
す	お	さ	ず	ど	る	て	ぬ

その2

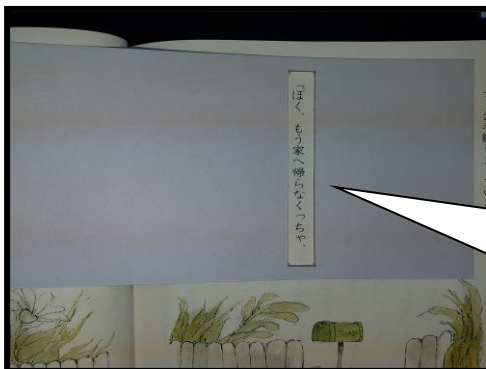
ワークシートを使用しました。文字列を文章として読むのではなく、特定の文字や単語を探しました。
※文字、記号、マーク等、様々なバージョンで行えます！

読む方向を決める。

縦、横、斜めのどの方向で
読むのかを伝えてから
スタート！

Point

視線をすばやく動かす！



その3

教科書を読む時の困難さを補う物として、スリットを使いました。読む箇所がはっきりして、行とばしが防げます。

その部分だけが見えるように
細い穴(スリット)を開けま
す。

※カラーのクリアファイルで
も簡単に作れます！

Point

読む箇所がはっきりして、ス
トレスも軽減します！